

2014年4月18日

### 小学生以下の子どもを持つ父親 694 名に聞いた 『父親の子育てに関する調査』 ～30代・40代の父親の子育て状況と母親の意識～

第一生命保険株式会社（社長 渡邊 光一郎）のシンクタンク、株式会社第一生命経済研究所（社長 長谷川 公敏）では、1都3県に居住し、小学生以下の子どもを持つ男性 694 名とその妻のうち協力を受諾した女性 490 名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

#### ＜調査結果のポイント＞

##### 父親の子育て行動の状況 (P. 2-3)

- 全体的に「時々している(した)」という回答が多い
- 最も多いのは「入浴介助」で、以下「遊び」「排泄介助」と続く

##### 父親における子ども関連のイベント参加状況 (P. 4)

- 父親が積極的に参加するのは運動会のようなスポーツ系イベント
- PTA 活動や役員活動には過半数が「行く必要がなかった」と回答

##### 配偶者の子育てに対する満足度 (P. 5)

- 母親の子育てに満足している父親は8割強
- 父親の子育てに満足している母親は6割強

##### 子育てストレスの有無 (P. 6)

- 父親の半数弱が子育てストレスあり、「かなり感じている」人は 6.8%
- 母親の約 75%が子育てストレスあり、「かなり感じている」人は2割弱

##### 子どもの状態の把握状況 (P. 7)

- 子どもの状態は全体的に父親より母親の方が把握している
- 特に父親に把握されにくいのは「情緒面の発育や悩み事・心配事」

##### 父母の生活満足度 (P. 8)

- 子どもに関する満足度は父母で大きな差はない
- 父親における「友人関係」の満足度は母親に比べてかなり低い

☆本冊子は、当研究所から季刊発行している『ライフデザインレポート』Spring 2014.4をもとに作成したものです。当該レポートは、下記のホームページにて全文公開しております。

#### ＜お問い合わせ先＞

㈱第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部  
研究開発室 広報担当（津田・新井）  
TEL. 03-5221-4771  
FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>



## 《調査実施の背景》

今日、子育てをする男性（通称「イクメン」）が増加しているとされています。しかし、諸外国にくらべて日本人男性の労働時間が長い状況は以前とそれほど変わっておらず、日本と他国ではその就労環境に大きな違いがあるのが実情です。労働環境の見直しなどの対策の必要性も求められていますが、これらの状況は徐々に変化していくことは期待できても直ちに改善されるものではないでしょう。

こうした中、実際に日本において、父親たちは具体的にどのように子育てにかかわっており、母親たちはそれをどのようにとらえているのでしょうか。これについて、小学生以下の子どもを持つ30代・40代の父親とその配偶者を対象にアンケート調査を実施しました。

## 《調査の実施概要、回答者の特性》

### 1. 調査地域と対象

1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に在住で、長子が小学生以下の子どもを持つ男性と、その妻のうち協力を受諾した女性

### 2. サンプル

インターネット調査会社である株式会社クロス・マーケティング社のモニター

男性 694名

女性 490名

### 3. 調査方法

インターネット調査

（株式会社クロス・マーケティング社に委託）

### 4. 実施時期

2013年10月

### 5. 回答者の属性

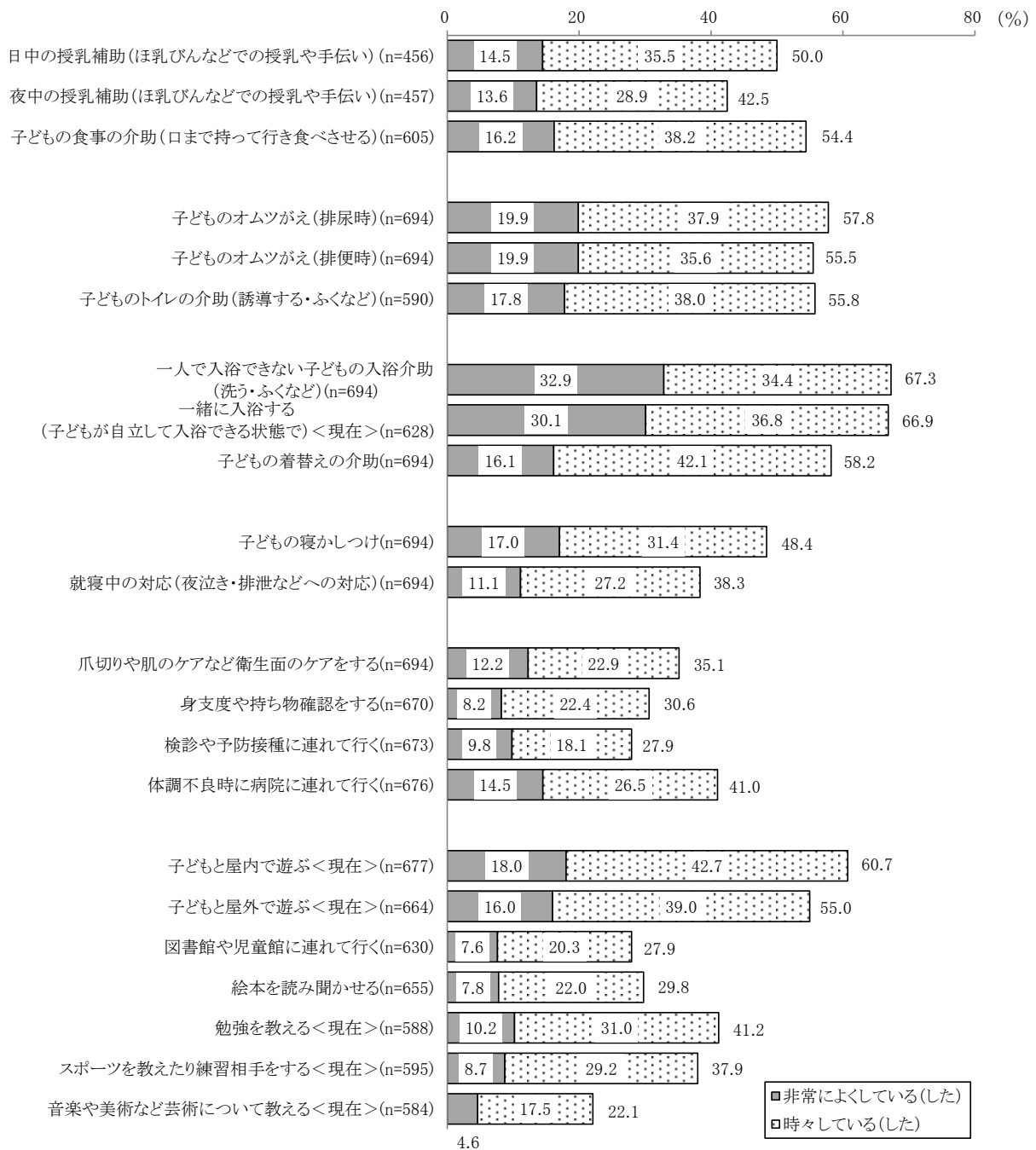
父親		人	%	
年代	30代	313	45.1	
	40代	381	54.9	
居住地	東京	268	38.6	
	神奈川	173	24.9	
	埼玉	133	19.2	
	千葉	120	17.3	
長子の性・年齢	男児	未就学	125	18.0
		小学校低学年	113	16.3
		小学校高学年	114	16.4
	女児	未就学	120	17.3
		小学校低学年	116	16.7
		小学校高学年	106	15.3

母親（回答者の妻）		人	%
年代	20代	14	2.9
	30代	251	51.2
	40代	220	44.9
	50代	5	1.0
職業	正社員・公務員・団体職員	134	27.3
	パート・アルバイト・派遣社員・内職	88	18.0
	専業主婦	247	50.4
	無回答	21	4.3

# 父親の子育て行動の状況

全体的に「時々している(した)」という回答が多い  
最も多いのは「入浴介助」で、以下「遊び」「排泄介助」と続く

図表1 父親の子育て行動の状況



注1: 右端の数値は「非常によくしている(した)」と「時々している(した)」の合計値

注2: それぞれの母数は、「該当しない(子どもがまだその対象ではない、必要ないなど)」を除いた数値となっている

注3: 授乳についての設問は、母乳子育ての場合は非該当としている

注4: <現在>とあるものについては、「現在の状況に限ってお答えください」と付記してたずねたものである

現代の父親は具体的にどのような行動でどの程度子育て（長子に対して）に関与しているのか（したのか）、家庭における様々なシーンごとに、「非常によくしている（した）」と「時々している（した）」と回答した割合を示しました（図表1）。

まず、授乳や食事の介助についてみると、「日中の授乳補助」については全体で50.0%が実施しているものの、「非常によくしている（した）」とする割合は14.5%です。一方、「夜中の授乳補助」になるとその割合は両者の合計で42.5%に下がります。「子どもの食事の介助」については54.4%が実施しているものの、「非常によくしている（した）」の割合は16.2%となっていました。

排泄介助についてみると、「子どものオムツがえ」については、排尿時・排便時ともに「非常によくしている（した）」は19.9%で、「時々している（した）」との合計値でそれぞれ57.8%、55.5%となりました。「子どものトイレ介助」についてもほぼ同程度の関与がみられます。

「一人で入浴できない子どもの入浴介助」については調査項目の中で最も関与の度合いが高く、「非常によくしている（した）」で3割を超え、「時々している（した）」を加えると67.3%でした。着替えの介助については合計で58.2%ですが、「非常によくしている（した）」とする割合は16.1%にとどまっています。

「子どもの寝かしつけ」についても、合計では48.4%を占めますが、「非常によくしている（した）」については17.0%です。夜泣きや排泄といった就寝中の対応についてはその割合は大きく下がり、主に母親にゆだねられている様子がわかります。

身の回りのケアや検診等の対応については、特に父親が担っている割合が低く、これらも母親主導で対応されていることがうかがえました。

遊びや学習についてみると、「子どもと遊ぶ」は、「非常によくしている（した）」と「時々している（した）」の合計で入浴介助に続いて多いですが、ここでも多くを占めたのは「時々している（した）」であり、「非常によくしている（した）」は2割に満たないのが実情です。「絵本を読み聞かせる」や「勉強を教える」「スポーツを教えたり練習相手をする」「音楽や美術など芸術について教える」などの学習支援については全体的によく実施されているとはいえませんでした。

これらの結果から、「非常によくしている（した）」と「時々している（した）」の合計で見ると父親が子育てに関与していると解釈できなくはありませんが、実際には「時々している（した）」との回答が多いことが指摘できます。

## 父親における子ども関連のイベント参加状況

父親が積極的に参加するのは運動会のようなスポーツ系イベント  
PTA活動や役員活動には過半数が「行く必要がなかった」と回答

図表2 父親における子ども関連のイベント参加状況

(単位：%)

	自分が行きたいので行った	行きたくないが行かざるをえなかった	行きたかったが行かできなかった	行きたくないで行かなかった	行く必要がなかった
妊婦検診(n=657)	47.9	12.0	10.4	5.9	23.7
出産の立会い(n=665)	61.8	9.2	14.7	6.9	7.4
幼稚園・保育園の入園式(n=570)	80.9	5.4	8.9	1.6	3.2
幼稚園・保育園の卒園式(n=480)	79.6	6.3	9.2	1.3	3.8
小学校の入学式(n=467)	79.2	5.1	10.1	1.5	4.1
園や学校の運動会のようなスポーツ系イベント(n=588)	85.5	7.3	3.9	1.4	1.9
園や学校の学芸会・音楽祭・展覧会のような文化系イベント(n=555)	77.7	8.3	8.8	2.0	3.2
園や学校の保護者会(n=556)	20.9	9.2	16.5	14.0	39.4
園や学校の活動参観・授業参観(n=562)	66.9	9.4	11.9	3.7	8.0
子どもの習い事やクラブ・サークル活動関連のイベント(練習、試合、対戦、コンクールなど)(n=467)	60.2	8.8	10.9	4.3	15.8
小学校のPTA活動や役員活動(n=435)	9.0	11.7	10.1	17.9	51.3

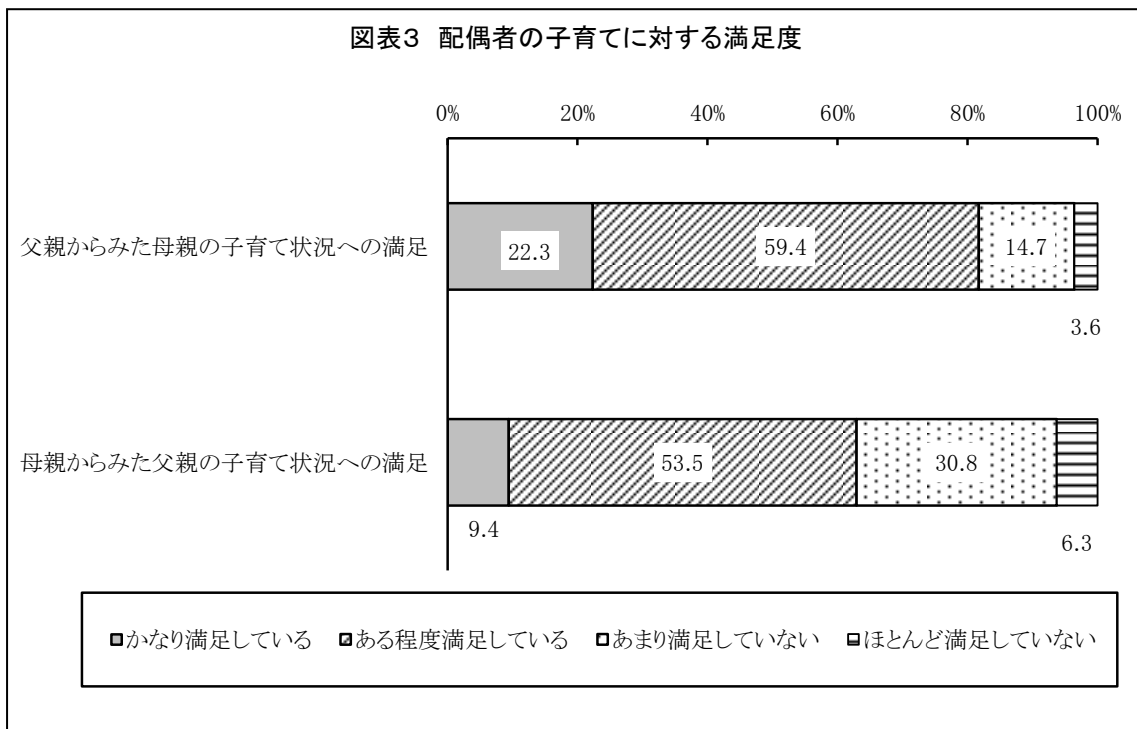
注1:各項目における非該当者は除外して集計

注2:「出産の立会い」については実際に出産自体に立ち会った割合というより出産に同行したと解釈するのが妥当である

子ども関連のイベントへの父親の参加状況についてみると、妊婦検診については「自分が行きたいので行った」とする割合が47.9%となっており、「行きたくないが行かざるをえなかった」(12.0%)とする人を加えるとほぼ6割が同行した経験を持っています(図表2)。一方、出産の立会いについては自らの意思で同行した男性は61.8%、「行きたくないが行かざるを得なかった」とする人が9.2%で、7割以上が立会ったとの回答を得ました。幼稚園・保育園の入園式・卒園式、小学校の入学式についてはいずれも8割の男性が自らの意思で参加していました。自発的参加の割合が最も高かったのが「運動会のようなスポーツ系イベント」であり、85.5%が「自分が行きたいので行った」と回答しています。また、保護者会への参加経験は2割程度でした。PTA活動や役員活動への参加経験は9.0%にとどまり、「行く必要がなかった」と回答した人が過半数を占めています。

## 配偶者の子育てに対する満足度

母親の子育てに満足している父親は8割強  
父親の子育てに満足している母親は6割強

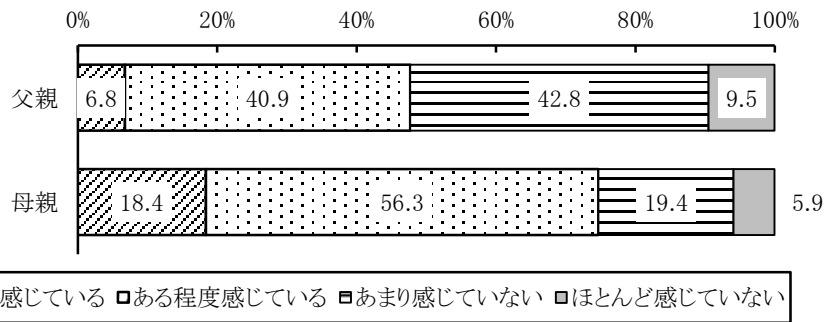


「あなたは奥様（旦那様）の子育て状況についてどの程度満足していますか」と尋ねた結果についてみると、父親は母親の子育て状況について22.3%が「かなり満足している」と回答しており、これに「ある程度満足している」の59.4%を加えると81.7%が「満足している」と回答していました（図表3）。一方で母親からみた父親の子育て状況について「かなり満足している」とする人は9.4%にとどまっており、「ある程度満足している」の53.5%を加えても、62.9%という結果となっています。母親の4割弱は父親の子育て状況に満足しておらず、お互いの子育て状況に関する満足度には約20ポイントの差があることがわかりました。

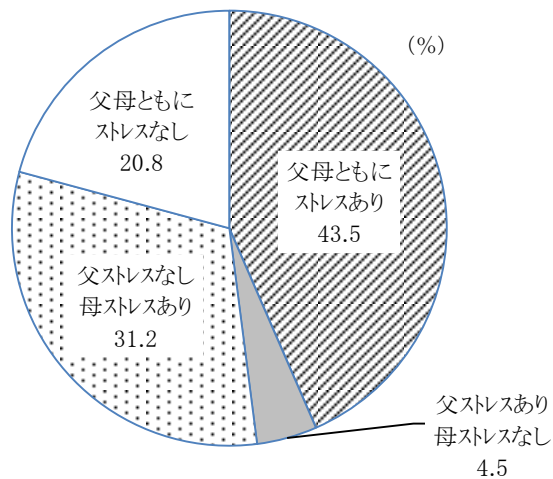
## 子育てストレスの有無

父親の半数弱が子育てストレスあり、「かなり感じている」人は 6.8%  
母親の約 75%が子育てストレスあり、「かなり感じている」人は2割弱

図表4 子育てストレスの有無



図表5 子育てストレスの有無(父母ペア別)

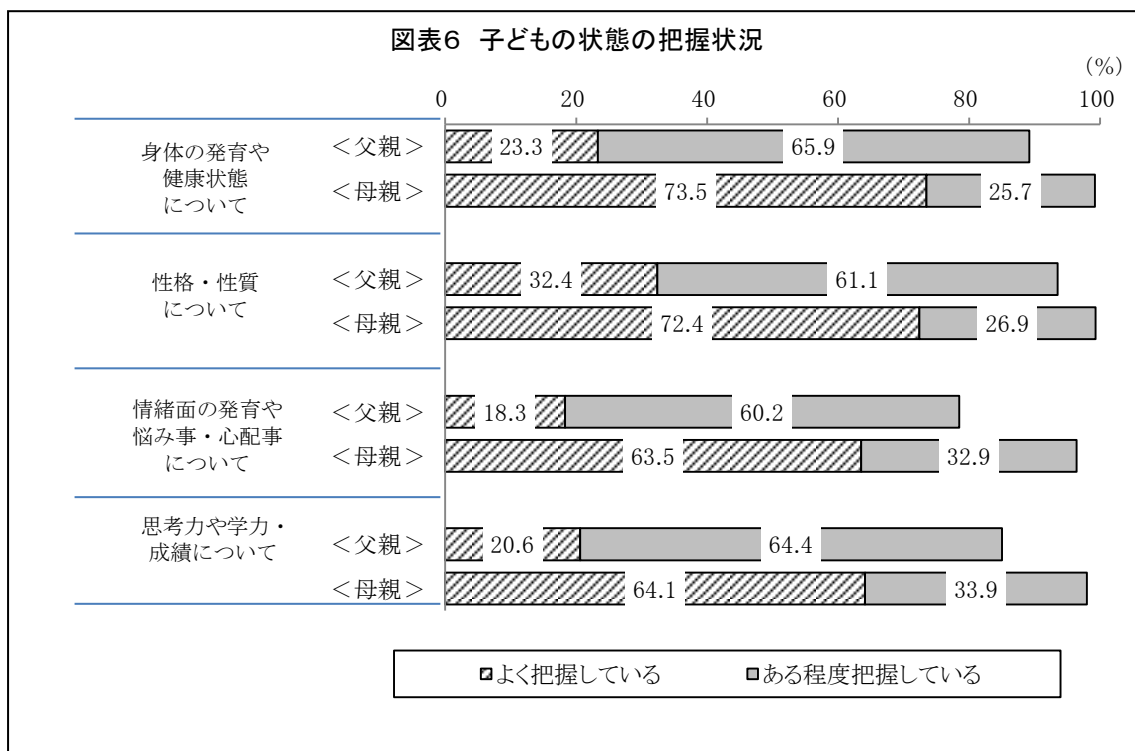


ストレスについてみると、父親全体では「かなり感じている」(6.8%)と「ある程度感じている」(40.9%)の合計で47.7%がストレスを感じていると回答しました(図表4)。一方で母親全体をみると、「かなり感じている」が18.4%、「ある程度感じている」が56.3%となっており、74.7%が感じていると答えています。

父母ペアでのストレスの有無についてみると、「父母ともにストレスあり」とするペアが43.5%で最も多く、これに「父ストレスなし 母ストレスあり」が31.2%で続きました。

## 子どもの状態の把握状況

子どもの状態は全体的に父親より母親の方が把握している  
特に父親に把握されにくいのは「情緒面の発育や悩み事・心配事」



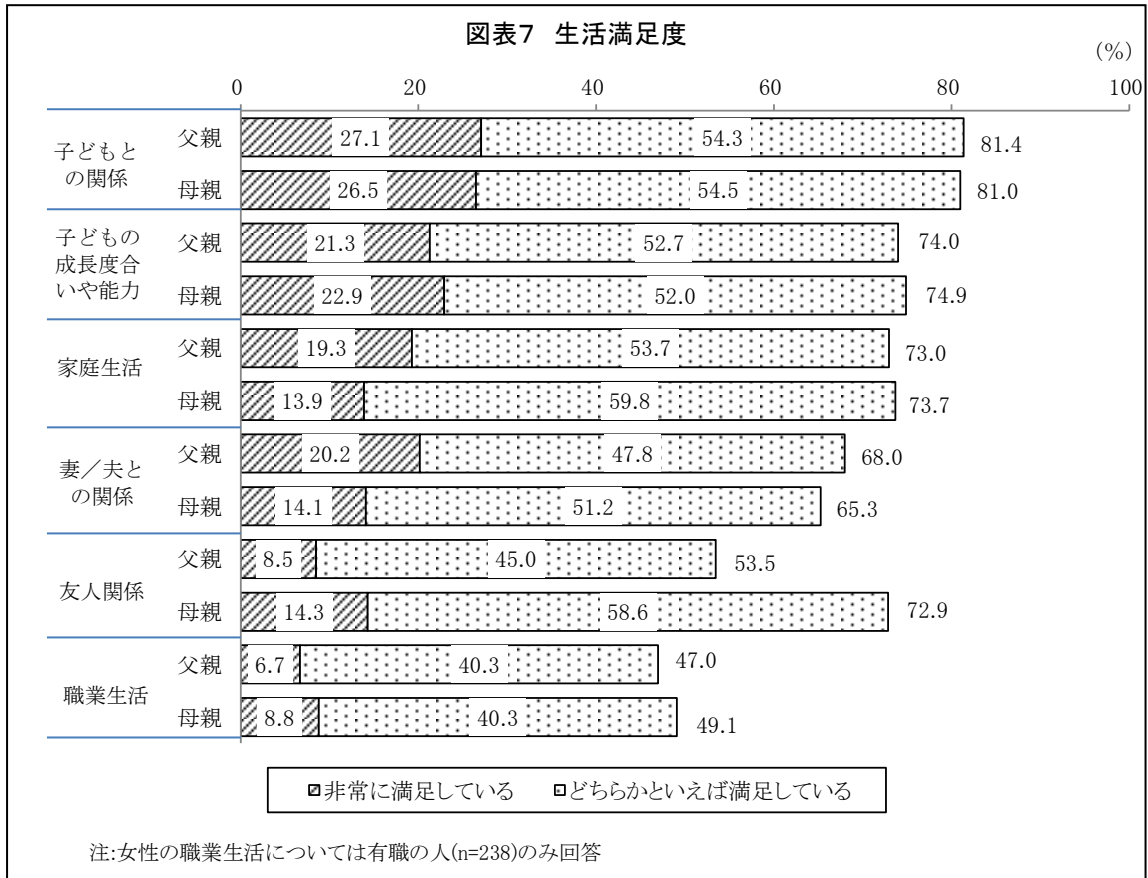
子ども（長子）の状態の把握状況についてみると、まず、「身体の発育や健康状態」について「よく把握している」と回答したのは、父親で23.3%、母親で73.5%でした（図表5）。また、「性格・性質」については父親で32.4%、母親で72.4%が「よく把握している」と回答しています。「情緒面の発育や悩み事・心配事」について「よく把握している」のは、父親で18.3%と低いのに対し、母親では63.5%となっていました。「思考力や学力・成績」については父親で20.6%、母親で64.1%が「よく把握している」と回答しています。

全体的にみて、父親より母親の方が子どもの状態を把握していると考えていることがわかる結果となっています。



# 父母の生活満足度

子どもに関する満足度は父母で大きな差はない  
父親における「友人関係」の満足度は母親に比べてかなり低い



生活満足度についてみると、まず「子どもとの関係」については父親・母親ともに8割を超えていました（図表6）。同じく「子どもの成長度合いや能力」「家庭生活」については共に4人中3人程度となっています。ただし「家庭生活」については「非常に満足している」の割合が父親で19.3%なのに対し、母親では13.9%とやや低くなっていました。同様に「妻／夫との関係」についても父親では20.2%が「非常に満足」と回答していますが、母親は14.1%にとどまっています。父母の差が最も大きかったのが「友人関係」で、「非常に満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計値が、父親で53.5%、母親で72.9%と、その差は19.4ポイントに及んでいました。

## 《研究員のコメント》

全体的に、父親は母親に比べて子育てへのコミットが少なく、その分子育てストレスも少ない状況にあること、母親に比べて子どもの把握度合いが低いこと、さらに生活満足度としては友人関係の満足度が低い状況にあることがわかりました。配偶者の子育て状況に対する満足度についてみても、父親が母親に対して感じる満足度に比べて母親が父親に対して感じる満足度のほうが低い点が確認されました。

父親の自由回答などでは「自分はできる範囲でやっていると思うのに、妻はそれを認めてくれない」という意見が目立ちました。子育ての実施率としては、「時々している」というものを含めると、いくつかの子育て項目はかなりの割合で父親が実施しています。父親側はそれらを「子育てをしている」と認識しているものと思われませんが、母親からみると「時々している」という単発的なものについては、「している」という認識をしていないケースが多い可能性があります。

また、子育てに関する行為一つをとっても、父親と母親での行動範囲が異なるケースがあることも、父母の認識の齟齬の一因となっている可能性があります。例えば入浴についてみると、家に母子しかいない状況で乳児の入浴を行う場合、母親は子どもの衣服を脱がせて排泄物の処理をし、自らの入浴もままならない状況で子どもを入浴させ、その後のケアや着衣までも自分で行います。対して父親が入浴させる場合は母親が在宅しているケースが多く、先に父親が入浴して受け入れ態勢が整ったところで母親が浴室に子どもを連れて行き、入浴後はまた母親が受け取って拭いて服を着せる形態をとることが多いのです。これをもって父親が「入浴担当」というには、父母間での捉え方があまりに異なるといえます。このように、男性の子育てが行為全体の一部を担っているに過ぎないケースは少なくありません。そうした状況を認識せず、子育てに部分的に関わった事実のみで「イクメン」を自称する男性に違和感を覚える女性の声も多々聞かれています。

こうした中で、父親はどのように子育てに関与すべきなのか。母親の自由回答からは「もっと子育てに関心をもってほしい」「父親としての責任を感じてほしい」との意見が散見されました。母親が子育てにおいて父親に求めるのは、単なる労働力としての関与のみでなく、子どもについて共に関心を持って考える「同士」であるケースが少なくありません。週に数度行う子どもの入浴介助より子どもについて母親と真剣にコミュニケーションをとることが、父親における重要な「子育て」であるケースは少なくないのです。子育てにおいては、物理的な労働力の行使とは別に、自分（母親）や子どもに対する「関心」が重要なキーワードとなります。この関心の欠如（もしくは関心の表現の欠如）が、「自分（父親）はできる範囲でやっていると思うのに、妻（母親）はそれを認めてくれない」という状況発生の一因となっている可能性があります。

（研究開発室 上席主任研究員 宮木由貴子）